

# 海外生活 エッセー

北京事務所

## 漢服ブームの到来 ～漢族と 55 の少数民族で構成される中国～

(一財)自治体国際化協会北京事務所 所長補佐 鈴木 龍蔵 (茨城県派遣)

### → 中国の伝統的な服

人口 14 億人 (日本の約 11 倍)、面積 960 万 km<sup>2</sup> (日本の約 25 倍) を誇る中国では、全人口の 92% を漢族、残りの 8% を 55 の少数民族が占め、地域によって文化が大きく異なります。その中国の伝統的な服と聞いて何を思い浮かべるでしょうか。多くの方は特徴的なチャイナドレスが思い付くのではないかと思います。

チャイナドレスは、中華民国の時代、1920 年頃、満州族の女性が着ていた服と西洋文化が融合して誕生したものです。西洋文化の象徴として中国各地に広まりましたが、現在は結婚式などで使用することが多いようです。

### → 漢服復興運動の始まり

2001 年に上海市で開催されたアジア太平洋経済協力会議 (APEC) では、各国首脳が中国の伝統衣装として唐装を着用するという場面がありました。この唐装は満州族の伝統衣装を改良した衣服だったため、中国の伝統的な服とは何か、漢族の伝統的な服とは何かという議論が起こり、結果として明代 (14～17 世紀) 以前に漢族が着用していた漢服の復興を目的とした漢服復興運動へと



漢服を着る子供も多い



SNS で共有される写真が漢服ブームを後押しする

つながりました。現在の漢服は漢代、唐代、宋代、明代のデザインに系譜を持ちつつ、伝統的な漢服と実用性を考慮して改良された漢服の大きく 2 種類に分かれます。

北京市内でも頻繁に漢服姿を見かけますが、特に若い人たちは週末のイベントなどで楽しむことが多いようです。中国の各地でも漢服ファッションショーが開催されているほか、インターネット交流サイト (SNS) 上には 1,000 人ほどが所属する漢服交流グループもあるそうです。

漢服をふだん着ている友人に聞くと、1 着 300 元 (約 4,800 円) 程度と安くはなく、中には 3,000 元 (約 48,000 円) を超える漢服もあるそうですが、男女を問わずに漢服ブームが到来しています。

### → ようこそ中国へ

最近では漢服デザイナーという職業さえ誕生するなど、漢服は今後も幅広い年齢層から支持を集めていくように感じますが、合計 56 の民族で構成される中国には漢服以外にも多くの民族衣装があり、さらには料理や言葉なども地域によって異なります。多くの方に中国を訪問していただき、地域ごとに大きく異なる中国文化を実際に体感していただければ幸いです。